

勞働移民ハ生活程度低キ土人及支那移民ト競争ニ堪ヘザルヲ以テ望ナキモ、會社及移住組合企業ニ依ル移民竝ニ小商業移民ニ取リテハ最モ有望ナリ。此等地方ニ對スル本邦移民收容力ハ企業ノ方法如何ニ依リテ總計三十萬人ト見積ル者アリ(中嶋總領事私案南洋拓殖會社設立案參照)。但シ國際上ノ關係ヨリ見テ此ノ如キ企業ノ計畫ハ實行難ナリト思ハル。

(三) 資料 關領東印度事情。

第一回貿易會議準備調查書第五、第七、第九、第十一。

人口食料問題ヨリ見タル南洋ノ考察及南洋拓殖會社設立案。

(J) 滿蒙及露領沿海州

(一) 移民ニ適スル主ナル事業

米作其ノ他ノ一般農業。

(二) 本邦移民ノ收容力

勞働移民ノ望ナキハ別ニ説明ヲ要セザルベシ。企業移民モ相手國ノ法制、馬賊ノ掠奪等ノ關係上、個々ニ移住スル見込ナク、一大資本ヲ以テ此等地方ニ農業地ノコンセツションヲ得、之ガ開發ニ必要ナル本邦移民ヲ送ルベキナリ。

(三) 資料

人口問題ヲ基調トシテ滿蒙拓殖策ノ研究。

露領沿海州ニ於ケル米作狀況調查報告。

(二) 移住地ノ諸設備及移住方法ニ關スル調査

移住方法ハ移住地先ノ經濟狀態及社會狀態ノ如何ニ依リ方法自ラ異ラザルヲ得ズ。今國別ニ依リ之ヲ

述ブレバ左ノ如シ。

(A) 伯國ニ付テハ左記三方法ヲ併セ行フヲ可トスベシ。

(イ) 特殊ノ移住方法ヲ講ゼズ、現在移民取扱會社ノ取扱ニヨル方法。

(ロ) 移住組合ニヨル方法。

(ハ) 會社企業ニヨル方法。

(イ)ニ關スル説明ハ伯國、サンパウロ、州ニ於テハ世界需要高ノ約八割ヲ產出スト稱セラルル珈琲ノ栽培ナル一大産業アリ。伯國人其ノ他ノ外國人ノ經營スル大小幾多ノ珈琲園ニ於テ外國勞働者ヲ需要スルコト大ナルヲ以テ、本邦勞働移民ニ對スル需要モ相當アリテ、明治四十一年以來昭和元年末迄ニ四八、二二九人ノ本邦移民ノ渡航ヲ見タリ。而シテ本邦勞働移民ニ對スル同地ノ需要ハ年々増加ノ傾向アレドモ、同地行勞働移民ニ付テハ現在ノ如ク家族構成移民タルコト、純農者タルコトヲ條件トシ渡航費ノ補助ヲ與ヘテ移民取扱會社ノ手ヲ經テ入殖セシムルコトヲ續行シ、特ニ新タナル方法ニ依ルノ必要ナカルベシ。但シ移民取扱會社ノ取扱振ノ改善ハ別問題トス。尙ホ從來ノ對伯國勞働移民ノ實績ヲ見ルニ、移民數ハ前記ノ如ク累計四八、二二九人ナルガ、其ノ伯國出生兒及他ノ南米諸國ヨリ流入セル本邦移民ト合セ、大正十五年十月一日在伯本邦人現在總數五五、四八一トナル。此ノ總數中ニハ官吏其ノ他非移民ト目スベキ者多少アレドモ、其ノ九分九厘ハ移民ナリ。勞働移民ハ珈琲園ニ就働中順調ニ行ケバ多少ノ蓄財ヲ爲シ、短キハ一年、長キハ三四年後ニハ珈琲園ヲ出デテ獨立農業者トナリ得ルモノニシテ、目下在伯本邦獨立農業者ト稱セラルル者ハ大部分其經路ヲ取レルモノナリ(在伯本邦人ノ職業ニ付テハ職業別人口表參照)。然レドモ右ハ順調ナル經路ニシテ、家族ノ疾病、死亡等ニ依ル勞働能力ノ減少及此等ノ事由ニ依リ生ズル負債ノ爲永ク勞働者ノ域ヲ脱シ得ザル悲境ニ在ル者モ相當アル見込ナリ。又獨立農ニ轉化セ

ル移民モ、内亂、旱魃、事業ノ手違ヒ等ニ依リ窮境ニ陥ル場合往々アリ。現ニ一九三二―三五年ニ互ル「サンパウロ」州南部大旱魃ニ依リ本邦移民ノ窮境ニ陥リ、其所有地ヲ喪失セントセル者頗ル多ク、之ニ對シテ大正十五年度ニ於テ政府ヨリ八十五萬圓ノ救濟貸付ヲ爲セル程ナリ。從テ過去ニ於ケル對伯勞働移民ノ實績ハ理想的ナリトハ云ヒ得ズ。伯國ガ徒手空拳ノ勞働移民ニ依リ理想郷ナリト稱セラルル反面ニハ、悲惨ナル失敗者ノ歴史モ相當アレドモ、通觀スレバ勞働移民ハ日本内地ニ鬪踏スルヨリモ幸福ナリト云ヒ得ベシ。

(ロ)ニ關スル説明―移住組合ハ、我移民ニシテ當初ヨリ多少ノ財産アリ勞働移民ノ階級ヲ經ズシテ直ニ獨立農タラントヲ希望スル者、及渡航後勞働移民ヨリ獨立農ニ轉化セントスル者ノ爲ニ、土地ノ購入其ノ他企業上ノ便宜ヲ得セシムルコトヲ目的トスル方法ナルガ、其ノ性質ハ産業組合ト同一ナルヲ以テ、其ノ性質上竝ニ資金ノ關係上、其ノ事業ハ確實ナルガ上ニ確實ヲ期セザルベカラズ。從テ前人未踏ノ地方ニ踏込ム先驅者タルノ事業ヲ爲スニ適セズ。伯國ニ於テモ、サンパウロ州及其ノ附近ノ諸州ニシテ比較的經濟狀態ノ調ヒタル地方ニ於テ植民事業ヲ爲スコト適當ナリ。移住組合ハ最近三重、和歌山、岡山、廣島、鹿児島、福岡、山口、愛媛ノ八縣ニ於テ設立セラレ、之ヲ統轄スル海外移住組合聯合會モ最近設立セラレ、其手ニ於テ伯國ニ於ケル移住地購入ヲ計畫中ナリ。從テ未ダ何等、實績ノ記スベキモノナシ。只移住組合ニ類似セル信濃海外協會、富山縣海外協會、鳥取縣海外協會、熊本縣海外協會ハ大正十三年以來サンパウロ州アラサツバ郡ニ於テ總計約二萬一千町歩ノ植民地ヲ建設シ、一家族二十五町歩單位ニテ移住ヲ開始シ、信濃海外協會ノ植民地ニハ既ニ内地ヨリ一二八家、總計五八一人、其ノ他ノ植民地ニモ各數家族ノ入殖ヲ見タリ。然レドモ最近伯國サンパウロ總領事ノ報告ニ依レバ、入殖者ガ必ズシモ純農者ニ非ザルコト、伯國ノ生活ニ慣レザルコト、既渡航ノ經驗アル移民ノ入殖少キコト等ノ爲、各入殖者ノ

成績充分ニ舉ラズト云フ。

(ハ)ニ關スル説明―伯國ニ於ケル前人未踏ノ地、例ヘバアマゾン流域ノ如キ、南部諸州ニテモゴヤス、マトグロソ及パラナ三州ノ如キハ、殖民地トシテ有望ノ地ナルガ、此ノ如キ地方ハ交通及産業設備ノ不備ナル爲直ニ勞働移民ノ入殖又ハ移住組合ノ企業ニ適セズ。企業會社ガ資本ヲ自由ニ運轉シ、衛生、交通等ノ設備ヲ爲シ、其ノ開發事業トシテ移民ヲ入殖セシムベキモノナリト思考ス。近時本邦資本家ニ於テ伯國ニ殖民ヲ目的トスル土地ヲ購入セントスル傾向アリ。既ニ山科禮藏氏ヲ中心トスル資本家ガパラナ州北部ニ於テ二萬五千町歩、野村德七氏ガ同所附近ニ於テ一千五百町歩、在紐育本邦人ノ組織セル南米企業株式會社ガアマゾン河口ニ於テ三千町歩ヲ購入セルガ如キ其ノ例ナリ。但シ此等ノ土地ニ對シテハ未ダ入殖ヲ開始シ居ラズ。

(B) 亞爾然丁、ウルガイ及パラガイ國ニ付テハ左記ニ方法ヲ併セ行フコト適當ナリ。

- (イ) 移住組合ニ依ル方法。
- (ロ) 會社企業ニ依ル方法。

(イ)ニ關スル説明―亞爾然丁及他ノ二國ニ於テハ伯國ニ於ケル珈琲ノ如キ大産業ナキヲ以テ、單純ナル勞働移民ノ渡航ニ適セズト雖モ、比較的鐵道ニ近キ地方ニシテ米、棉、蔬菜ノ耕作ニ適スル土地多ク、移住組合ニ依ル移住方法ニ適スト認ム。

(ロ)ニ關スル説明―亞爾然丁及他ノ二國ニ於テハ未ダ本邦資本家ノ殖民地ヲ購入セルモノナシト雖モ、會社企業ニ依ル殖民ノ有望ナルハ疑ナキ所ニシテ、本邦資本家ニシテ同地ニ土地ヲ購入セントスル場合ニ有望地ハ容易ニ其ノ手ニ入ルベク、亞國官民ハ本邦資本家ノ此ノ企業ヲ歡迎シツツアル實情ナリ。

前述ノ如ク亞國ニハ伯國ニ於ケルガ如キ大産業ナク、從テ同國ヲ目的トセル本邦移民モ誠ニ微々タル

モノニシテ、大正十五年十月一日現在在留邦人ハ二、七三一人ニ過ギズ。而シテ渡航者ハ概ネ既渡航ノ縁故者ヲ頼リテ渡航スルニ過ギズ。在留邦人ノ大部分ハ都會ニ集中シテ目前ノ賃銀ニ満足スルノ風アリテ、二ノ例外ヲ除キテハ同國ニ對スル移民ノ過去ノ實績トシテ述ブルニ足ルモノナシ。又他ノ二國ニハ各五、六人ノ在留邦人アリ、ミニシテ、何等記スベキ事績ナシ。

(C) 智利

同國ハ硝石以外ニ大産業ナク、近時南方地方ニ於ケル農業ノ有望ナルコト明カトナレルモ、果シテ移住組合乃至會社組織ノ移民事業ニ適スルヤ否ヤニ付テハ未知數ナリ。同地ニ對シテハ暫ク從來通り移民ノ自由渡航ニ委ヌ可トスベシ。

同國ニ於ケル本邦人數ハ大正十五年十月一日現在ニテ六三七人ニ過ギズ。大體ニ於テ其ノ生業ニ安ジ居ルト云フ外ニ特記スベキ實績ナシ。

(D) ポリビヤ國

同國ニ會社又ハ移住組合企業ノ可能性アルヤ不明ナリ。會社企業トスレバ、拓殖事業ヨリモ鑛企業ヲ適當トスベシ。同國ハ暫ク移民ノ自然渡航ニ委ヌ可トスベシ。

(E) 祕露

同國ニ對シテハ現在程度ノ自由渡航ノ續行ヲ適當トスベシ。同國ニ於ケル棉作ハ最近數年次第ニ有望トナリ來リ、棉其ノ他ノ農園ニ於ケル勞働者ノ需要相當大ナルモノアリ。嘗テ移民取扱會社ノ手ニ依リ本邦集團的勞働移民ノ送出ヲ爲シタルコトアルモ、入殖早契約ヲ無視シテ全部脱走スルガ如キコト續キ、本邦移民ノ聲價ヲ害シタル等ノ爲、本邦移民ニ對スル需要減少シタルト、後述スルガ如キ事由ニ依リテ排日ノ風潮盛ナル實情トニ依リ、移民取扱會社ノ手ニ依ル大量移民ノ送出ハ當分望ナ

ク、呼寄其ノ他ノ事由ニ依ル渡航ヲ適度ニ續行スルヲ可トスベシ。尙ホ同國ニ對シテハ移住組合及會社企業ノ方法ニ依ル移住ヲ想像シ得レドモ、排日ノ盛ナルニ鑑ミ、此ノ二方法モ之ヲ同國ニ行ハザルヲ可トス。

祕露ニ於ケル本邦人ハ大正十五年十月一日現在ニ於テ一、七八六人ナルガ其ノ大部分ハ都會ニ集中シ、理髮、氷屋、雜貨等ノ小職業ニ従事シ、祕露人ノ同業者ヲ壓シツツアルヲ以テ、其ノ聲價頗ル惡シク、加フルニ米國ニ於ケル排日ニ影響セラレ、今日日本移民ニ對シ最モ激烈ナル反對ノ氣勢ヲ擧ゲツツアリ。

(F) 哥倫比亞國

同國ハ移民事業ニ取リテハ大ナル未知數ナリ。先ヅ試驗的ニ數家族ノ移民ヲ入殖セシメ、其ノ結果ヲ見ルヲ可トス。

(G) 墨西哥ニ付テハ會社企業ニ依ルヲ適當トス。

墨國ニ於テモ亦多數勞働移民ヲ需要スベキ産業ナキヲ以テ、勞働移民ノ移住ハ之ニ適セザルモ、會社企業トシテハ頗ル有望ニシテ、有望殖民地ノ手入モ困難ナラズ。資本ヲ有スル日本移民モ亦歡迎セラレツツアリ。只移住組合ノ事業ハ同國新土地法上ノ障害アリテ、同國ニ對シテハ企業困難ト思ハル。綿米、砂糖、黍、蔬菜等ノ耕作適地ハ、太平洋沿岸諸州及之ニ接著セル南方數州ニ於テ隨所ニ物色シ得ベシ。從來墨國ニ入國セル本邦移民ハ相當數ニ達スルモ、現在ニ於ケル在留本邦人ハ四、〇一八人ニ過ギズ。然レドモ殘留者ハ著實ナル發展ヲ遂ゲツツアリ。墨國語ヲ好クシ、墨國婦人トノ結婚行ハレ、墨國人ニ融和同化シツツアル點ニ於テ、在墨日本移民ハ他國在留本邦移民ニ比シ社會的ニ最モ良好ナル成績ヲ示シツツアリ。

(H) 比律賓諸島ニ付テハ左記ニ方法ニ依リ得ベシ。

- (イ) 移民取扱會社ニヨル勞働移民。
- (ロ) 會社企業。

比律賓中本邦移民ノ好適地ト目スベキハ差當リミンダナオ島ニシテ、同島ニハ麻栽培ナル大産業アリテ本邦勞働者ニ對スル需要大ナルモノアリ。之ニ對スル移民ハ現在移民取扱會社ノ手ニ依リテ送出シツツアリ。將來ニ之ヲ續行スベシ。會社企業トシテハ太田興業會社其ノ他ノ本邦會社ニシテ既ニ同地ニ企業セルモノ多數アリト雖モ、同島與地ハ尙ホ未開發ノ儘ナルヲ以テ、新ニ會社企業ニ依リテ之ヲ開發シ、必要ナル本邦勞働移民ヲ誘入スルヲ得ベシ。但シ同地ハ移住組合ニ依ル移住ニ適スルヤ否ヤハ疑問ナリ。

- (I) 蘭領東印度諸島マレー半島、英領北ボルネオ及暹羅ニ適スル移住方法ハ左ノ如シ。

- (イ) 會社企業。

- (ロ) 移住組合企業。

イノI參照。

- (J) 滿蒙及露領沿海州

移住方法ハイノJ參照。

- (三) 移住地ニ於ケル移住者ノ永住ヲ圖ルニ必要ナル諸設備ノ種類ニ關スル調査

一 學校、附屬寄宿舎、教師住宅ニ移住者ノ永住心ヲ弱ムル原因ノ一ハ移住地ニ於ケル子弟教育設備ノ不備ナリ。南米諸國ト云ヒ南洋地方ト云ヒ、其ノ國其ノ地方ノ小學校ナキニ非ザルモ、外國移民ノ發展スル先々ニ一々之ガ爲ニ小學校ヲ建設スルハ、其ノ國トシテ中手ガ届カズ。從テ移民ハ其ノ國ノ小學校ヲ利用スルコトヲ得ズ。又之ヲ利用シ得トスルモ、移民ガ故國ニ關スル智識ヲ其子弟ニ授ケントスルハ人情ノ已ムヲ得ザル所ニシテ、此ノ如キ原因ヨリシテ移民ハ半バ移民國ノ教育ヲ目的トシ半バ故國

ニ關スル智識ノ教授ヲ目的トスル自己ノ小學校ヲ欲スルモノナルガ、小學校ノ建設、教材ノ購入、教師ノ俸給等ニ少カラザル費用ヲ要スルヲ以テ、移民自己ノ力ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得ズ。從テ出移民國トシテハ、移民保證獎勵ノ見地ヨリシテ、出來得ル限り移民子弟ノ初等教育設備ニ對シ補助スベキモノナリト信ズ。尙ホ移民地ニ於テハ移民ハ各地ニ散在スルヲ常トシ、其ノ中心地點ト目セラルベキ地點ニ自己ノ小學校ヲ建設スルモ、所ニ依リテハ子弟ハ數里ノ遠路ヲ通學セザルベカラザル不便アリ。從テ南米、南洋方面ノ都會地ヲ離レタル殖民地小學校ニハ、兒童寄宿舎ヲ設備スル必要アリ。尙ホ又移民地ニ於テハ、日本人教師ニ付テハ勿論、其ノ國人教師ニ付テモ、教師難ヲ感ズルコト大ナルモノアリ。從テ一教師ヲ得ルニハ餘程其ノ待遇ヲ善クセザルベカラズ。此ニ於テ教師住宅ヲモ給シテ之ヲ優遇スルノ必要ヲ生ズルニ至ル。

二 小學校ト獨立セル寄宿舎ニ移住歴史ノ稍古キ地方ニ於テハ、移民ノ子弟ニシテ地方小學校ヲ卒業シ都會ニ出デテ中等教育ヲ受ケントスル者輩出シツツアルモ、都會地ニ於ケル費用、宿泊ノ便宜ノ缺如等ノ關係上、其ノ希望ヲ實現シ得ザル者比比然リ。此ニ於テ都會地ニ於テ此ノ如キ地方青年ヲ收容世話スベキ寄宿舎ノ必要ヲ生ズ。

三 病院醫局及巡回醫師制度ニ移民地ハ概ネ新開地ナルヲ以テ、病院其ノ他衛生保健ノ設備ノ不備ナルハ周知ノ通りニシテ、移民ノ安心永住ノ爲ニ病院ノ必要ナルハ言ヲ俟タズ。又假ニ病院アリトスルモ、遠隔ノ地ニ在ル移民ハ病院ヲ利用スルニ便ナラズ。此ニ於テ病院ト稱スルニ至ラザル醫局ヲ所在ニ設クル一方、産婆及醫師ヲシテ各地方ヲ巡回セシムル制度ヲ必要トス。

四 巡回圖書館及活動寫眞ニ移民ハ遠ク海外ニ在ル爲、日本内地ノ書籍刊行物ヲ入手スルコト容易ニ非ズ。之ニ代ヘツツアリト云フモ、過言ニ非ズ。偶々日本ノ雜誌ヲ手ニ入ルルトキハ、廣告ノ末ニ至ル

迄目ヲ通ス程ナルヲ以テ、移民ノ娛樂ノ一方法トシテ、趣味ヲ中心トセル書籍雜誌ノ類ヲ蒐集シ、絶エズ之ヲ移民地ニ送り、甲ノ殖民地ヨリ乙丙丁ト轉送願讀セシムルコト適當ナリ。右書籍雜誌ハ古本ニテモ可ナルニ付、寄贈ニ依リ蒐集シ得ベキヲ以テ、費用トシテハ移民地迄ノ輸送費及移民地間ノ運送費ヲ要スルニ過ギザルベシ。尙ホ本國活動寫真ノ移民ニ悅バルルコトハ非常ナルモノナルヲ以テ、材料ヲ選ビ之モ巡回式ニ轉轉觀覽セシメ、書籍ト相俟ツテ移民ヲ慰藉スルヲ得ベシ。

五 信教上ノ設備—移民ニ宗教心ヲ養成スルノ必要ハ多言ヲ要セズ。移住國ニ依リテハ佛教ヲ悦バズ、基督教中ニテモ新教ヲ悦バザル所アルヲ以テ、其ノ國情ニ應ジ、佛教、新教又ハ舊教等ノ布教師ヲ配シ、移民ノ信仰心ヲ養成スベキナリ。

六 婦人ホーム—海外何レノ移民地ニ於テモ本邦婦人ノ數頗ル少ク、移民ノ子弟ニシテ青年ニ達シタ者及青年移民ハ配遇者ヲ得ルコト至難ナルガ爲ニ、青年男子ハ精神荒廢シ、甚シキハ精神ニ異狀ヲ呈スル實例少カラズ。從テ本邦内地ニ於テ婦人ホームヲ作り、海外渡航ノ志アル婦人ニ移住ニ關スル或程度ノ教育ヲ爲スト同時ニ、海外移民地ニ於テモ婦人ホームヲ設ケ、内外相應シテ婦人ノ單獨渡航ノ途ヲ開キ、海外ニ於テ男女互ニ配遇者ヲ求ムルニ便ナラシムルヲ要ス。

七 移民ノ爲ノ經濟的施設—以上ハ移民ノ身心の方面ニ對スル必要施設ナルガ、移民ノ經濟的の方面ニ對スル施設トシテ必要ナルモノ左ノ如シ。

(イ) 倉庫、加工場—移民地ハ交通不便ナルヲ常例トスルヲ以テ、收穫物ヲ一定ノ時期迄ニ安全ニ保存スル設備及收穫物ニ必要ナル加工ヲナスノ設備ヲ自由ニ利用スルコトヲ得ズ。爲ニ不利ナル値段ニテ收穫物ヲ處分セザルベカラザル破目ニ立至ル場合頗ル多シ。サレバトテ移民ハ此等ノ設備ヲ爲スノ自力ナキヲ以テ、一地方ニ於ケル移民ヲシテ組合ヲ造ラシメ、之ニ適當ナル補助ヲ與ヘ、倉庫加工

場等ノ設置ヲ獎勵スルノ必要アリ。

(ロ) 金融設備—在外本邦移民ガ經濟上最モ苦シミツツアルハ金融機關ノ缺如ナリ。本邦銀行、外國銀行ナキニアラズト雖モ、小企業者ヲ相手トセズ。已ムヲ得ズ南米方面ニ於テハ移民相手ノ高利貸ヨリ一時資金ノ融通ヲ受ケテ一時ヲ凌ギ、南洋方面ニ於テハ融通ノ途ナキヲ以テ一朝不景氣トナレバ事業ヲ抛テ歸國セザルベカラザル状態ナリ。移民金融ヲ目的トスル特殊銀行ヲ造リ又ハ移民ヲシテ信用組合ヲ造ラシメ、之ニ適當ナル資金ヲ政府ヨリ融通スルコト必要ナリ。

八 在外公館補助機關—移民ハ農事其ノ他ノ企業經營ニ付テ技術上ノ相談者ナク、企業ノ方針及事業ノ改善方法等ノ決定ニ付方針方法ヲ誤ル場合頗ル多シ。故ニ技術方面ニ於テ移民ヲ指導スル機關ヲ要ス。又移民ハ地主トノ間ニ紛争ヲ起スコト往々アリ。其ノ解決ニ仲介者アルコトヲ便トス。尙ホ南米方面ニ於ケル移民ニ付テハ同化ヲ獎勵セザルベカラズ。又移民ハ多年海外ニ在ルトキハ、本國日本ノ事情ニ疎遠トナリ、本國ガ樂園ノ如ク見エ、多少蓄財ヲ生ズレバ日本ニ歸ランコトヲ思フニ至ルコト常ナルヲ以テ、本國ノ生活ノ如何ニ苦シキカヲ屢々宣傳シテ、目的地ニ於ケル彼等ノ永住ヲ獎勵セザルベカラズ。故ニ社會的の方面ヨリ移民ヲ指導スル機關ノ必要ヲ見ル。此等ノ機關ハ之ヲ在外公館ノ補助機關トシ、農業技術者其ノ他移民地國語ヲ好クシ移民地ノ事情ニ精通スル者ヲ機關ニ屬セシメ、絶エズ管内ヲ巡視セシメテ、移民ノ疾苦ヲ調査シ、事業經營ニ指導ヲ與ヘシムルコトトスベシ。

右補助機關ノ内、技術的指導機關ハ之ヲ勸業部トシテ既ニ伯墨、亞諸國ノ在外公館ニ之ヲ設置シ、社會的指導機關ハ之ヲ移民部トシテ昭和三年度豫算ヲ以テ差當リ在伯サンパウロ總領事館ニ之ヲ置カント計畫中ナリ。

第四 移住ノ一般的獎勵方策ニ關スル調査

(調査項目第二部第五項)

我國現下ノ人口食糧問題ノ狀況ヨリ觀テ、國內移住及國外移住共ニ大ニ之ヲ獎勵スルノ必要アルコト、コ、ニ贅言ヲ要セザル所ナリ。然ルニ我國民ハ一般ニ移住思想ニ乏シク、其ノ活動ノ天地多クハ一郷一村ニ限ラレ、偶、移住ノコトアルモ都市ヘノ移住ニ限ラレ、北海道、樺太ノ如キ地域ニ志スモノ極メテ少ク、就中海外移住者ノ數ニ至リテハ、之ヲ現下人口増加ノ趨勢ニ比スルトキ、眞ニ寥々タルノ有様ナリ。然レドモ之ガ原因タルヤ、必ズシモ國民ノ移住ニ不適當ナルニ非ズシテ、從來國家及國民全體トシテ組織的統一的ニ移住ノ方策ヲ講ズルコト少カリシニ因ルト云フモ過言ニ非ザルベシ。而モ現下ノ狀況ヨリ察スレバ、移住ノ問題ヲ一府縣、一地方ノ自發ノ態度ノミニ委セズシテ、之ヲ全日本の問題トシ、官民協力シテ、ソレガ實行方策ヲ講ズルノ必要最モ切ナルモノアリ。之ガ爲ニハ、移住ノ一般的獎勵方策トシテ、次ノ諸項ニ留意シ、其ノ實現ニ努ムルヲ要ス。

1. 移住思想ノ普及ヲ圖ルコト。

國民教育及社會教育ヲ通ジテ、我國ニ移住ノ必要ナル所以ヲ知悉セシメ、殊ニ移住ニ必要ナル實際手續ヲ諒解セシムルコト肝要ナリ。而シテ之ガ爲ニハ、講演、活動寫眞、ラジオ等ヲ通ジテ、宣傳ニ努ムルハ固ヨリ、移住讀本ノ如キパンフレットヲ、全國ノ學校、官衙、市町村、男女青年團其ノ他ノ諸團體並ニ廣ク一般國民ノ前ニ提供スルコト、有益ナルベシ。

2. 内外移住地事情ノ紹介ニ努ムルコト。

移住ノ必要ヲ知ルモ移住地事情ニ關シ、アル程度ノ理解ヲ與ヘザルニ於テハ、移住及移住地ニ於ケル成

功ノ實現ヲ期スル上ニ於テ遺憾少カラズ。故ニ政府ニ於テハ、講演、活動寫眞、ラジオ等諸種ノ方策ヲ講シテ、移住地ニ關スル正確ナル事情ノ紹介ニ努ムベク、虐偽ノ情報ニ就テハ、極力之ガ取締ヲ爲スヲ要ス。尙次ノ諸項ハ最モ急施ヲ要スルモノト認ム。

イ、移住讀本ノ如キパンフレットニ依リ、移住地事情ヲ紹介スルコト。
ロ、小學校、中等學校ノ地理教育ニ於テ、移住地事情ノ教授ヲ詳密ナラシムルコト。
ハ、各府縣廳及職業紹介所ニ移住相談係ヲ置キ、廣ク移住相談ニ預カラシムルコト。
ニ、海外博物館ヲ設置シ、内外移住地事情ノ紹介ニ努ムルコト。

3. 植民研究所ヲ設置スルコト。

移植民事業ノ健全ナル發展ヲ期センガ爲ニハ、英國ニ見ルガ如キコロニヤル、インスティテュートヲシテ、移植民ニ關スル豊富ナル資料ヲ蒐集シ、移植民政策ニ關シ、科學的組織的ナル調査研究ヲ遂ゲシメ、以テ移植民計畫ノ樹立並ニ運用ノ基礎ヲラシムルヲ要ス。然ルニ我國ニ在リテハ、未ダ植民政策ノ調査研究ニ關スル國家的施設ヲ見ズ。之レ甚ダ遺憾ナルヲ以テ、速ニ之ヲ設置シ、海外博物館並ニ附屬圖書館ト連絡シテ、大要次ノ如キ職能ヲ行ハシムルヲ要ス。

(イ) 歐米各國ノ移植民政策ノ沿革、現在ニ於ケル移植民政策ノ趨勢ト其ノ諸施設、其ノ他移植民ニ關スル一切ノ事相ヲ調査研究スルコト。

(ロ) 我國從來ノ移植民事業ノ沿革並ニ其ノ成績、移植民地ニ關スル地人文的資料、殊ニ移住者ノ保健衛生ニ關スル資料ノ蒐集整理、移植民地ニ於ケル産業金融事業等ニ關スル資料ノ蒐集整理及我國現在並ニ將來ニ於ケル移植民政策ニ關スル一切ノ調査研究ヲ爲スコト。

4. 良質移住者ノ養成ニ努ムルコト。

移住獎勵ノ效果ヲ全カラシメントセバ、須ク移住民ノ質ヲ善良ナラシメ、從來北米ニ於テ我移民ノ蒙リシガ如キ非難ナカラシムルヲ要ス。移住者ノ質ヲ良好ナラシムルハ、單リ國際的關係ニ於テ良結果ヲ齎スノミナラズ、移住者自身ノ移住地ニ於ケル生活ノ基礎確定ノ爲ニ絶對的必要ナリ。而シテ之ガ爲ニハ、次ノ方策ヲ講ズルヲ要ス。

イ、移植民學校ヲ内地ニ新設シ、又ハ既設ノ移植民學校ノ發達ヲ促進スルコト。

ロ、移植民專門學校ヲ移住地(特ニ海外移住地)ニ設立スルコト。

ハ、實業學校ノ教科目中ニ、外國語移住地事情其ノ他必要ナル科目ヲ加ヘ、移住者ノ養成ニ資セシムルコト。

5. 移民收容所ノ充實整備ヲ圖ルコト。

移民ノ出發前ノ保護ニ關シテハ、移民收容所ノ設置ノ本年度豫算ニ計上セラレ、近ク神戸市ニ之ガ設置ヲ見ルベク、以テ移民ノ出發前十日間無料ニテ移民ヲ收容シ、衛生其ノ他保護教育ヲ加ヘラルル運ビトナリタリ。之甚ダ適切ナル方策ナリ。將來ハ必要ニ應ジ、一層之ガ設備ヲ改善充實スルト共ニ、此ノ種ノ收容所ヲ長崎ニ設置スルヲ相當トス。

6. 移民保護官ヲ設置スルコト。

移民ノ保護ニ關シテハ、移民保護官ヲ設置スルコト緊要ナリ。

7. 移植民保險ノ制度ヲ設クルコト。

移民ノ移住地ニ於ケル生活ヲ保障シ、其ノ安全ヲ圖ランガ爲ニハ、移植民保險制度ヲ設クルコトヲ適當トス。

8. 移民ノ國家的社會的優遇ノ途ヲ講ズルコト。

移住者ハ其ノ國內移住者タルト、國外移住者タルトヲ問ハズ、一家ヲ舉ゲテ他郷ニ雄飛セントスルモノニシテ、其ノ國家ニ及ボス影響甚ダ貴重ナルモノアルニ拘ラズ、此等移住者ノ處遇ニ就テハ、到ル處冷淡ニ流ルルノ嫌ナキニ非ズ。カノ英國ガ國家ノ上下ヲ舉ゲテ熱誠、厚禮以テ移民ヲ遇スルノ狀ニ比シ、其ノ懸隔ノ甚シキ眞ニ驚クベキモノアリ。斯ノ如キハ雷ニ移住者ノ意氣ヲ沮喪セシムルノミナラズ、移民事業ノ進展上最モ遺憾ナルヲ以テ、政府ハ移民功勞者ノ論功表彰ノ道ヲ講ズルト共ニ、道府縣ニ互リ移民ノ處遇ニ關シ夫々地方的事情ニ應ジ、適切ナル具體的方策ヲ講ゼシムルコトヲ要ス。

9. 移住民ノ移住旅費ノ輕減及補助ノ範圍ヲ擴大スルコト。

現今内外移住者ニ對シ、移住旅費等ノ經濟的負擔ヲ輕減スルノ目的ヲ以テ、移住者ノ支出スベキ、汽車電車、汽船ノ普通運賃ニ對シテ、五割引ノ制度ヲ設ケ居ルモ、尙ホ移住獎勵ノ徹底ヲ期スル爲適當ナル改正ヲ爲スコトヲ要ス。且國外移住者ニ對スル渡航費補助ニ就テハ、從來ブラジル移民ニ限ラレタルモ、將來之ヲ其ノ他ノ方面ニ赴ク移住者ニモ擴張スル爲相當豫算ヲ増額スルコトヲ要ス。

10. 移植民後援團體ノ普及發達ヲ圖ルコト

現今ノ海外協會其ノ他之ニ類スル團體ノ普及發達ヲ獎勵シ、以テ内外移植民ノ後援ノ機關ヲシムルコトヲ要ス。

第五 拓殖會社及拓殖銀行ノ設立ニ關スル調査

(調査項目第二部第六項)

(第一) 南米拓殖會社

一 設立ノ理由

ブラジル、アルゼンチン、ボリビヤ等南米諸國ニ於ケル天然ノ資源ノ豐富ナルコトハ周知ノ事實ニ屬ス。而シテ之等ノ諸國ハ何レモ自國ノ産業ノ振興國富ノ盛大ヲ致サンガ爲ニ、常ニ外國ヨリ適當ナル勞力及資本ヲ輸入セントスルノ態度ヲ執リツツアリ。此ノ事實ハ既ニ各種ノ調査資料或ハ實地踏査ニ依リテ明ナル所ナリ。

殊ニ伯國サンパウロ州、パラナ州、ミナスゼラス州地方ニ於ケル珈琲、棉花、米、養蠶、及北伯アマゾン地方ニ於ケル護謨、ココア、藥草、米、棉花、砂糖、煙草等各種ノ農産、林産、其ノ他諸礦業等竝ニ亞國地方ニ於ケル棉花栽培業、米作、牧畜業ボリビヤ國地方ニ於ケル各種礦業等ハ邦人ノ組織的ナル植民及拓殖企業ヲ爲スニ最モ有望ナル狀態ニ在リ。

近年我國モ南米地方ニ着目スルノ趨勢ニ向ヒタリト雖モ、未ダ勞働移民ノ域ヲ脱セズ。伯國ニ於ケル各國ノ投資ヲ見ルニ、英國二億七千磅、佛國三十四億佛、米國五億弗ヲ超エ、此ノ方面ニ對スル外國人ノ投資ハ益々盛ナラントスルモノアリ。

最近米國自動車王ヘンリー・フォードハ早グモアマゾン流域ニ護謨栽培ノ大計畫ヲ企テツツアルモ、勞働者ノ供給ニ困難ヲ有セリト言フ。幸ニ我國ハ勞資共ニ供給シ得ルノ好條件ヲ有スルヲ以テ、將來南米ニ計畫的ナル發展ヲ期セントセバ、之ガ中心機關トシテ一面ニ植民事業ヲ經營シ他面ニ企業投

資ヲ行フ有力ナル會社ヲ設立シテ國民ノ海外發展ヲ助成スルト共ニ、各種工業原料品ノ生産ヲ圖ツテ、我國産業ノ振興ニ與ラシムルコトハ、現下ノ國情ニ鑑ミ、最も重要ナル急務ト爲スベシ。

二 會社ノ目的及事業ノ種類

甲 會社ノ目的

會社ハ中南米諸國ニ於テ植民地ノ建設經營及植民事業ニ關係シ、有望ト認メラルル各種ノ企業ニ投資シ、我が海外拓殖事業ノ組織的ナル發達ヲ圖ルヲ以テ其ノ目的トス。

乙 會社ノ事業

會社ノ事業ハ大體左ノ如シ。

(一) 植民事業

會社ハ中南米諸國國內ニ於テ有望ナル植民地ヲ購入又ハ租借シ、或ハ有利ナル土地ニシテ無償讓渡ヲ受クルコトヲ得ル場合ニハ迅速ニ之ヲ取得シ、邦人ノ移住ニ必要ナル左ノ事業ヲ行フ。

- 1 農業
- 2 林業
- 3 牧畜業
- 4 植民事業ニ必要ナル土地ノ賣買及貸借
- 5 植民事業ニ必要ナル土地ノ經營及管理
- 6 植民事業ニ必要ナル建築物、住宅ノ築造、賣買及貸借
- 7 移住者ノ募集、渡航ノ斡旋
- 8 移住者ニ對シ土地、住宅ノ購入費又ハ生産資金其ノ他移住ニ必要ナル資金ノ貸付

- 9 移住者ニ對シ生活及拓殖上必要ナル資料又ハ器具ノ購買ノ斡旋又ハ貸付
- 10 移住者ノ生産物ノ購入、加工、販賣又ハ委託ニ依ル加工、販賣
- 11 其ノ他植民地ノ建設經營ニ必要ナル事業

(二) 産業施設

會社ハ植民地經營上共同作業場、共同倉庫、生産物ノ精選工場、加工工場、製材工場、煉瓦工場、精米製粉場、農具工場、線棉工場、電信所、運輸機關、道路、水道、電氣事業其ノ他必要ト認メラルル事業及施設ヲ爲ス。

(三) 文化的施設

從來我が植民事業ニ於テ最も缺除セル點ハ、各種ノ文化的施設ヲ不充分ナルコトナリ。本來文化的施設ハ植民地經營上直接的效果少キモノノ如ク觀ラレタル傾キナキニ非ザルモ、移住者ヲ定着セシメ且勞働能率ノ増進ヲ圖ル上ニ於テ極メテ重要ナル事項タルコト英國國民ノ植民事業ニ於テモ明ニ觀取セラレル所ニシテ、會社ガ植民事業ノ組織的遂行ヲ爲サントスルニ當ツテ特ニ意ヲ用フベキ重點ナリトス。

仍テ會社ハ植民地ニ産業研究所ノ如キ施設ヲ設ケテ移住者ノ産業指導機關ヲラシムルノ外、學校、病院、農園、托兒所、共同浴場、假宿泊所、集會所、娛樂設備、教會寺院、墓地等ノ施設ヲ爲シ異域ニ活動スルモノニ對スル慰安保護ノ途ヲ講ズルモノトス。

(四) 投資企業

會社ハ植民地經營上必要アリト認ムル場合ニ於テハ、新ニ精米製粉業、製造加工工業、鑛業、倉庫業、鐵道業、船舶運輸業、電氣業、製材業、土木業、新聞經營其ノ他有望ト認ムル各種ノ事業ヲ創業シテ、直接之ガ經營

ヲ爲シ、或ハ既設事業ニ對シテ投資シ、或ハ共同經營スルモノトス。但シ既設事業ニ投資シ該事業ヲ擴張スル場合ニ於テハ、單ニ出資スルニ止ラズ、進ンテ管理指導スルノ權利ヲ確保シ、事業ノ確實ヲ期スルコトヲ要ス。

(五) 子會社ノ設立經營

會社ハ植民地ノ建設又ハ新事業ノ計畫ヲ爲スニ當ツテ、之ヲ會社ニ於テ全部ノ資本ヲ投ジテ直營スルノ外、當該地方ノ資本ヲ容レテ子會社ヲ設立シ、子會社ヲシテ其ノ事業ヲ經營セシムルコトヲ得ルモノトス。而シテ子會社ノ設立竝ニ登記ハ子會社ノ所在地ニ於テ爲シ、純外國會社ト爲ス。但シ會社ハ子會社ノ株式ノ少クトモ半數以上ヲ引受ケ、之ガ經營指導監督ニ付テハ充分ノ權利ヲ確保スルコトヲ要ス。

(六) 植民及企業ニ關スル調査

會社ハ海外各地ニ於ケル經濟事情及産業狀態ヲ調査スルト共ニ、各種企業ノ設計、引受及仲介ヲ爲ス。

(七) 各種債券等ノ應募又ハ引受

會社ハ外國ノ國債又ハ債券類竝ニ海外企業ヲ目的トスル會社ノ發行スル株式類ノ應募、賣買、又ハ取扱及ビ之ニ對スル投資ヲ爲スコトヲ得ルモノトス。

三 會社ノ事業地域

會社ノ事業地域ハ南米ノブラジル、アルゼンチン、ポリビヤ、パラグアイ、ウルガイ、ペルー、チレ、コロンビヤ、エクバドル、ヴェネズエラ、ギヤナ中米ノメキシコ及西印度諸島ノ範圍トス。

四 會社ノ組織

(一) 會社ハ政府ノ保護監督ヲ受クルコト勿論ナリト雖モ、其ノ組織ハ純民間會社トシテ設立ス。

(二) 會社ノ重役ハ株主總會ニ依リテ選任セラルベキモノトシ、政府ニ於テ之ヲ選任スルガ如キコトナカラシムルコト。(之ヲ半官半民ノ會社ト爲シ、會社ノ重役ヲ官選トスルガ如キハ、諸般ノ事情ニ鑑ミ、會社事業經營上支障少カラズト認メラルルヲ以テ、會社ノ重役ハ株主總會ノ選任ニ一任シ、

拓殖企業ニ經綸ヲ有スル者ヲシテ長ク其ノ手腕ヲ發揮セシムル様其ノ地位ヲ安固ナラシムルノ要アリ。)

(三) 役員

會社ノ幹部ハ成ルベク少クスルコトトシ、重役ハ社長一人、專務一人又ハ二人、取締役七名以內、監査役三名以內トシ、社長及專務ハ海外事業ニ經驗ヲ有シ實業界ニ於テモ實力アル者、取締役竝ニ監査役ハ海外事業ニ經驗ヲ有スル實業家ヲ選出スルコト。

(四) 人物ノ採用

會社ノ事業ハ内外各地ニ互リ、其ノ業務ノ如キモ極メテ繁雜困難ナルヲ以テ、可及的海外植民拓殖ノ事業ニ趣味及經綸ヲ有スル人才ヲ採用スルト共ニ、專門學校以上ノ卒業生中優秀ナル者ヲ採用シテ、會社將來ノ經營ヲ委スベキ人材ヲ養成スルコト。

五 資本金及政府ノ援助

- (一) 會社ノ資本金ハ二千萬圓トシ、之ヲ四十萬株ニ分チ、一株ノ金額ヲ五十圓トス。
- (二) 會社ノ株式ハ記名式トシ、壹株券、拾株券ノ二種トス。
- (三) 株金ノ第一回拂込ハ一株ニ付其ノ株金ノ四分ノ一トシ、左表依リ漸次資本ヲ充實スルモノトス。尙ホ政府ハ事業開始ノ初年ヨリ十年間ヲ限リ、其ノ拂込資本金額ニ對シ、一箇年左表ノ率ニ依リ利子補給ヲ爲スモノトス。

年度別	拂込資本	利率	利子補給額	補給年數	累計
自昭和三年度	五、〇〇〇、〇〇〇	八厘	四〇〇、〇〇〇	三	一、二〇〇、〇〇〇
自昭和六年度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	七厘	七〇〇、〇〇〇	三	二、一〇〇、〇〇〇
自昭和九年度	二〇、〇〇〇、〇〇〇	六厘	一、二〇〇、〇〇〇	四	四、八〇〇、〇〇〇
自昭和十二年度	二〇、〇〇〇、〇〇〇			一〇	八、一〇〇、〇〇〇
計	二〇、〇〇〇、〇〇〇				

(四) 低利資金ノ融通

政府ハ會社ノ必要ニ應ジ資本金額二千萬圓ニ付ツノ二分ノ一ノ金額一千萬圓迄ノ低利資金ヲ左記條件ニ依リ融通スルモノトス。

- (1) 低利資金ハ會社ノ必要トスル金額ヲ貸付ス。但シ一箇年百萬圓ヲ限度トス。
 - (2) 年利五分。
 - (3) 五箇年間据置。
 - (4) 其ノ後十箇年間ニ償還ス。
 - (5) 据置期間中無利子トス。
- (五) 植民事業ニ對スル政府ノ援助
- 純民間會社トシテ組織セラルルモ、事業ノ性質上、政府ハ會社ノ經營スル植民事業中左記事項ニ對シテハ可及的援助ヲ與フルコトヲ要ス。
- (1) 移住者ノ渡航船賃ノ補助
 - (2) 移住者ノ生産資金融通

- (3) 植民事業ニ直接關係ヲ有スル産業施設
- (4) 植民地ニ於ケル學校、病院、寺院其ノ他ノ公益施設

六 事務所

會社ハ本社ヲ東京ニ置クコトトスルモ、其ノ實際業務ハ南米各地ニ散在スベキヲ以テ、必要ニ應ジ此等ノ地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ、複雑ナル業務ノ連絡統制ヲ圖ルモノトス。

(第二) 南洋拓殖會社

一 設立ノ理由

我國ニ對シ比較的近距离ニ位スル南洋ガ、天然ノ資源豐富ニシテ我が産業上ノ寶庫タルコトハ衆說ヲ要セザル所ナルベシ。馬來半島、スマトラ及其ノ附近ニ於ケル護謨栽培事業及鐵、錫鑛業、瓜哇ノ砂糖、煙草、暹羅ノ米、菲律賓ノ麻、スマトラ、ボルネオ、緬甸ノ石油、ボルネオノ錫、石炭其ノ他南洋各地ニ於ケル椰子、油椰子、茶、ココア、規那、サイザル麻、有用木材等甚ダ多種豐饒ナルモノアリ。而シテ今後我國ガ此ノ豐富ナル資源ヲ如何ニ開發利用シ得ルヤハ、我國産業ノ進展ニ密接ナル關係ヲ有スルノミナラズ、人口食糧問題解決ノ見地ヨリスルモ極メテ重要ナル意義ヲ有ス。從來我國民ニシテ此ノ方面ニ移住シ小資本ヲ以テ事業ヲ營ム者或ハ會社組織ヲ以テ小規模ノ企業ヲ營ム者小カラズト雖モ、未ダ此等事業家ノ事業ヲ支持スベキ一ノ銀行ナク又此ノ資源ヲ開發利用セントスル一ノ大會社ナキコトハ大ナル遺憾トス。

現下内外ノ狀況ニ鑑ミ、我が人口食糧竝ニ原料供給問題ノ解決ニ資シ、併セテ國際的企業競争裏ニ立チテ充分ナル地歩ヲ確保スルノ目的ヲ以テ、政府ノ特別ノ援護ヲ有スル拓殖會社ヲ設立スルコトハ、最モ重要ニシテ且急務ナリト認ム。

三 會社ノ組織ト其ノ事業ノ概要

- (一) 會社ノ目的及事業ノ種類ハ、大體ニ於テ南米拓殖會社ト同一ノ方針ニ依リ、特ニ南洋方面ニ於テ事業ヲ爲スニ適スル様仕組ムコト
- (二) 會社ノ事業地域ハ蘭領東印度諸島、英領東印度諸島、馬來半島、暹羅、緬甸、比律賓、ニューギニヤ及南洋群島ノ一圓トス。
- (三) 會社ノ組織ハ大體南米拓殖會社ノ方針ニ依ルコト。
- (四) 資本金額ハ一千萬圓トシ、拂込方法及政府援助ノ方法ハ大體南米拓殖會社ノ事例ニ依ルコト。
- (五) 事務所ハ本社ヲ東京ニ置キ、必要アル地方ニ支店又ハ出張所ヲ設置スルコト。

(第三) 樺太拓殖會社

一 設立ノ理由

現在我國内ニ於テ尙ホ未利用ノ資源ヲ保有シ、拓殖移住ノ餘地存スルモノアリトセバ、北海道及樺太之ナリ。樺太ハ領有既ニ二十二年、時ニ之ガ拓殖開發ノ計畫ヲ樹テタルコトナキニシモ非ズト雖モ、常ニ政府財政ノ都合ニ依リ之ガ充分ナル實現ヲ見ルニ至ラズ。此ノ如キハ我國産業ノ見地ヨリ見ルモ、將又人口食糧問題ノ見地ヨリ見ルモ、遺憾ニ堪エザル所ナリ。

仍テ樺太ニ於ケル資源ノ開發ニ付テハ、先ヅ根本的調査ト組織的計畫ノ樹立ヲ要スルコト勿論ナリト雖モ、茲ニ有力ナル會社ヲ新設シ、植民事業及各種ノ事業ヲ經營セシメ、以テ樺太ノ資源ヲ開發利用スルハ、現下ノ國狀ニ鑑ミ極メテ重要且急務ナリトス。

二 會社ノ組織ト其ノ事業ノ概要

- (一) 會社ハ樺太ニ於ケル資源ノ開發竝ニ植民事業ヲ爲スヲ以テ目的トスルコト。

- (二) 會社ノ事業ノ種類ハ、大體南米拓殖會社ノ事例ニ依リ、特ニ樺太ニ適スル様之ヲ仕組ムコト。
- (三) 會社ノ事業地域ハ樺太島内(露領ヲ含ム)及露領沿海州地方トスルコト。
- (四) 會社ノ組織ハ大體南米拓殖會社ノ方針ニ依ルコト。
- (五) 資本金額ハ一千萬圓トシ、拂込方法及政府援助ノ方法ハ大體南米拓殖會社ノ事例ニ依ルコト。
- (六) 事務所ハ豊原町ニ本社ヲ置キ、必要アル地方ニ支店又ハ出張所ヲ設置スルコト。

(第四) 拓殖銀行

一 設立ノ理由

移殖民ノ事業タル其ノ方策ニ種々アルベシト雖モ、而モ斯業ノ基礎トシテ極メテ重要ナルハ金融機關ノ施設ナリ。海外及日本領土内移住地域ニ於ケル我勞働力ニ資本ヲ伴ハズシテハ、有效ナル拓殖事業ヲ望ムコト能ハザルベシ。而シテ從來移住地ニ於ケル我ガ拓殖事業ノ萎靡振ハザリシハ、拓殖専門ノ金融機關ノ施設ヲ缺キタルコト少クトモ其ノ一原因タルヲ失ハズ。サレバ拓殖銀行ハ海外及國內移住地ニ於ケル經濟的缺陷ヲ救済シ、以テ我ガ拓殖事業ヲ振興センガ爲ニ適切ナル金融施設ナリト認ム。

二 銀行ノ業務種類

- 拓殖銀行ハ海外及日本領土内各移住地域ニ於テ、農業又ハ各種ノ事業、貿易事業等ニ對シ、特ニ貸付ニ對スル擔保ノ範圍ヲ擴張シ且長期ニ互ル貸付ヲ爲ス特殊ノ金融機關タルヲ以テ、之ニ必要ナル業務ノ範圍ヲ左ノ如ク定ム。
- (一) 年賦又ハ定期償還ノ方法ニ依リ不動産商租權其ノ他不動産上ノ權利ヲ擔保トスル貸付
- (二) 年賦又ハ定期償還ノ方法ニ依リ農業其ノ他各種事業ノ將來ニ於ケル收益ヲ擔保トスル長期貸付

- (三) 鐵道其ノ他確實ナル擔保アル貸付
- (四) 公債證券社債券株券其ノ他ノ有價證券又ハ貨物ヲ質トスル貸付
- (五) 外國ノ爲替及荷爲替
- (六) 內國ノ爲替及荷爲替
- (七) 諸預リ金、保護預リ(保護預リニ付テハ營業地ニ格納庫ヲ設ケテ之ニ金、銀、有價證券其ノ他ノ貴重品ヲ預ク)
- (八) 爲替手形、約束手形其ノ他流通證券ノ割引又ハ賣買
- (九) 爲替手形、約束手形其ノ他ノ流通證券ノ代金取立
- (十) 地金銀ノ賣買、兩替
- (十一) 債務並ニ信用ノ保證
- (十二) 證券ノ賣買ノ仲介
- (十三) 信託業務
- (十四) 借款ノ引受並ニ資金ノ仲介
- (十五) 銀行ノ業務代理。
- 三 銀行ノ組織
 - (一) 植民銀行ハ政府ノ監督ヲ受クルモ、重役ノ選任ハ株主總會ニ一任シ、銀行ヲシテ純民間會社タラシムルコト。
 - (二) 銀行ノ組織ハ株式會社タルコト。
 - 株主ハ多數日本人ヨリ成ルト雖モ、必ズシモ日本人ニ限定スルノ要ナク、海外移住地關係ノ外國人

フシテ株主タラシムルモ妨ゲナカルベシ。

四 資本金及政府ノ保護

- (一) 植民銀行ノ資本金額ヲ二千萬圓トス。
- (二) 資本金額二千萬圓ヲ二十萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ百圓トス。
- (三) 株金ノ第一回ノ拂込ハ一株ニ付其ノ株金ノ四分ノ一トシ、左表ニ依リ漸次資本ヲ充實スルモノトス。尙ホ政府ハ殖民銀行ノ開業ノ初年ヨリ十年間ヲ限リ、其ノ拂込資本金額ニ對シ、一箇年左表ノ率ニ依ル利子補給ヲ爲スモノトス。

年 度 別	拂 込 資 本	利 率	利 子 補 給 額	補 給 年 數	累 計
自昭和三年度	五、〇〇〇、〇〇〇 ^円	八 朱	四〇〇、〇〇〇 ^円	三	一、二〇〇、〇〇〇 ^円
自昭和五年度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	七 朱	七〇〇、〇〇〇	三	二、一〇〇、〇〇〇
自昭和六年度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	七 朱	七〇〇、〇〇〇	三	二、一〇〇、〇〇〇
自昭和七年度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	六 朱	一、二〇〇、〇〇〇	四	四、八〇〇、〇〇〇
自昭和八年度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	六 朱	一、二〇〇、〇〇〇	四	四、八〇〇、〇〇〇
自昭和九年度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	六 朱	一、二〇〇、〇〇〇	四	四、八〇〇、〇〇〇
自昭和十年度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	六 朱	一、二〇〇、〇〇〇	四	四、八〇〇、〇〇〇
自昭和十一年度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	六 朱	一、二〇〇、〇〇〇	四	四、八〇〇、〇〇〇
自昭和十二年度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	六 朱	一、二〇〇、〇〇〇	四	四、八〇〇、〇〇〇
計	二〇、〇〇〇、〇〇〇	—	—	一〇	八、一〇〇、〇〇〇

(四) 低利資金ノ融通

- 政府ハ銀行ノ必要ニ應ジ、銀行ノ資本金額二千萬圓ニ付、其ノ二分ノ一ノ金額一千萬圓迄ノ低利資金ヲ、左記條件ニ依リ融通スルモノトス。
- (1) 低利資金ハ銀行ノ必要トスル金額ヲ貸付ス。但シ一箇年百萬圓ヲ限度トス。
 - (2) 年利五分。

- (3) 五箇年間据置。
 (4) 其ノ後十箇年間ニ償還ス。
 (5) 据置期間中無利子トス。

五 事務所

銀行ノ本店ヲ東京ニ置キ、海外及日本領土内各移住地域ニ就キ必要ト認ムル所ニハ支店ヲ設ク。

第六 移住ニ關スル行政機關ノ調査

(調査項目第二部第七項)

現下我國人口増加ノ趨勢著シク、之ガ對策如何ニ付テハ眞ニ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ。惟フニ人口消化ノ根本義ハ國民生活ノ安定ニ在ルベク、而シテ國民生活ノ安定ハ富ノ増殖ト公平ナル富ノ分配トニ存スベシ。富ノ増殖ハ主トシテ之ヲ産業貿易ノ振興ニ俟ツノ外ナキモ、國土狹小ニシテ天恵少キ帝國ニ於テ果シテ無限ニ増加スル人口ヲ消化シ得ベキカ否カ疑ナキ能ハズ。然レドモ樺太及北海道ノ如キハ尙ホ未ダ比較的人口少ク、拓地植民ノ餘地ナキニ非ズ。官民一致尙一段ノ努力ニ依リ所謂内國植民ノ相當ノ效果ヲ舉グルコト決シテ至難ニ非ザルベシ。海外移住ニ至リテハ内地人ニ封建領國ノ遺風尙ホ存シ海外移住ニ慣レザルト、國際關係、經濟的關係或ハ氣候風土ノ關係上許多ノ障礙アルニ因リ、之ガ實現ハ容易ナラズト雖モ、海外ニ於ケル帝國ノ經濟的發展策又ハ個人ノ生活向上策トシテ尙ホ相當ノ價值ヲ有スベク、從テ人口問題解決ノ一助トシテ寄與スル所亦鮮少ニ非ザルベシ。以上述べタル産業貿易ノ振興、内國植民及海外移住ハ各人口問題ノ根本的解決策トシテハ充分ナラザルモ、其ノ畫策施設ノ如何ニ依リテ皆相當ノ效果ヲ舉ゲ得ベキコト言ヲ俟タズ。

然ルニ現在我國ニ於ケル移民行政ハ區々トシテ歸一スル所ヲ知ラズ。大體海外及内地ニ於ケル移住ノ獎勵ニ關シテハ之ヲ内務省ニ於テ掌理シ、海外移住地ニ於ケル在留民保護ニ付テハ領事ヲシテ其ノ任ニ當ラシムルモ、移民ノ指導助長及海外ニ於ケル拓殖事業ノ指導獎勵ニ關シテハ殆ンド全ク放任ノ姿ニ在リ。又朝鮮、臺灣及樺太等ニ對スル移住ニ付テハ之ヲ當該植民地長官ニ委スルモ萎微トシテ振ハス。

惟フニ我國移民事業ノ實效舉ラザルハ、實ニ政府ノ施設經營常ニ姑息ヲ極メ、且其ノ行政官廳多岐ニ分

其ノ間殆下連絡統一ヲ缺クニ由ル所少カラズ。蓋シ移民ノ事務ハ内地ハ勿論各殖民地及海外移住地
下充分ノ連絡交渉ヲ有スルモノニ非ザレバ其ノ圓滑ナル運用ヲ期シ難キモノニシテ、之實ニ、拓務省設
置ノ必要アル所以ナリ。即チ拓務大臣ヲシテ移民ニ關シ内地府縣知事及各殖民地長官ヲ指揮監督セシ
ムルト同時ニ、海外ニ於ケル移民ノ指導助長及拓殖事業ノ指導獎勵ノ事務ニ當ラシムル爲外交官及領
事官ヲ指揮監督セシメ、且樞要ノ地ニ拓務官ヲ駐在セシメテ移民ノ指導助長及拓殖事業ノ指導獎勵ニ
當ラシムルコトヲ要スルモノトス。

次ニ滿蒙ノ地ハ所謂我國ノ特殊地域ニシテ、幾多ノ生靈ト巨億ノ費ヲ投シ國運ヲ賭シテ贏チ得タル地
域ナリ。帝國ノ權利利益ヲ擁護シ益々其ノ發展ヲ圖ルハ帝國ノ經濟上及國防上極メテ緊要ノ要務ナ
リ。

滿蒙ニ於ケル帝國ノ權利、利益及邦人ノ現狀ニ關シテハ今茲ニ之ヲ贅セズ。然レドモ帝國ガ條約上滿蒙
ノ地ニ其ノ特殊ノ權利ヲ確立シテ以來已ニ二十年、今尙ホ充分ナル發展ヲ爲スコト能ハザルハ幾多ノ
理由アルニ因ルベシト雖モ、帝國ノ滿蒙ニ對スル經營常ニ姑息ヲ極メ、且其ノ機關區々ニ分レテ連絡統
一ヲ缺クニ因ル所少シトセズ。他方滿蒙及西比利亞地方ニ於ケル朝鮮人ノ現狀ヲ見ルニ、其ノ數詳カナ
ラザルモ約百五十萬ヲ下ラザルベク、南滿洲及東部內蒙古ニ分布スル朝鮮人ノミニテモ恐ラク七十萬
以上ニ上ルベシ。而シテ此等朝鮮人ノ生活狀態ハ概シテ貧困ニシテ、多クハ窮迫ノ裡ニ露命ヲ維ゲルコ
ト漂泊ノ當年ト大差ナキニ似タリ。閑地多ク地味膏腴ナル滿洲ニ移住シテ既ニ多年、尙ホ且斯ノ如キ所
以ノモノハ、不逞鮮人ノ横行匪賊ノ跳梁ニ依リテ掠取強奪ノ禍ヲ被ルコト其ノ一因ナリト雖モ、貪婪ナ
ル支那人地主ノ誅求ト彼等ガ日本臣民トシテ充分ナル保護ニ浴セズ且滿蒙條約及間島協約ニ依リ享ケ
得ベキ各種ノ利益特權ガ常ニ蹂躪セラレ而モ之ニ對シテ充分ナル匡救ノ途ノ講ゼラザルトニ依ル所

少カラズ。

惟フニ在滿鮮人ノ發展ハ帝國ノ對支政策上極メテ重大ニシテ、其ノ發展如何ニ依リテ帝國ノ經濟的發
展國力ノ伸張ニ影響スルコト著大ナルノミナラズ、其ノ朝鮮統治ノ上ニ及ボス影響ニ至リテハ蓋シ甚
大ナルモノアリ。殊ニ朝鮮ノ接壤地方ニ於ケル朝鮮人ノ向背如何ハ朝鮮統治上直接間接多大ノ影響ヲ
及ボスベク、此等境外ノ鮮人ニ對シテハ能ク帝國ノ惠澤ト威信トヲ知ラシムルニ非ザレバ永ク朝鮮統
治ノ禍根タルベシ。

滿蒙條約及間島協約ノ勵行ハ日支間ニ横ハル機微ノ問題ニシテ實現容易ナラザルモノアルモ、之ガ勵
行ハ帝國ノ對支發展上及朝鮮統治上極メテ緊急ヲ要スルモノニシテ、其ノ實現ニ付テハ帝國トシテ最
善ノ努力ヲ要スルモノナルモ、今茲ニ之ヲ詳論セズ。

從來帝國ノ在滿鮮人ニ對スル保護約施設ハ、大體朝鮮ノ國境附近ニ於テハ朝鮮總督府、其ノ他ノ地域ニ
在リテハ外務省及南滿洲鐵道株式會社ニ於テ之ヲ行ヒツツアリテ、各相當ノ效果ヲ舉ゲツツアルモ、其
ノ經費少額ニシテ充分ノ經營ヲ爲スコト能ハズ、且其ノ間充分連絡統一ナク、其ノ實效ヲ舉グルニ遺憾
ノ點少カラズ。

要スルニ從來滿蒙ニ於ケル帝國ノ權利及利益ヲ確保シ、以テ充分ナル經濟的發展ヲ爲スコト能ハザル
所以ノモノハ、滿蒙條約及間島協約ガ事實上殆ト空文ニ歸シ、條約上ノ保護全ク蹂躪セラレツツアルニ
依ル所大ナリト雖モ、又從來帝國ノ施設經營常ニ姑息ヲ極メ、且其ノ機關區々トシテ統一の經營ヲ爲ス
コト能ハザルニ因ル所少シトセズ。今ヤ滿蒙政策ニ對スル根本的方針ヲ確立シテ其ノ施設ヲ統一シ、之
ガ徹底的經營ヲ圖リ、以テ朝鮮統治ト充分ナル協調ヲ保タシメ、帝國ノ經濟的發展ヲ策スルハ、帝國ノ對
外發展上將又朝鮮統治上實ニ刻下ノ急務ナリト思料ス。

滿蒙ノ地ハ素ヨリ支那ノ領土ナリ。故ニ在留民ノ保護取締ニ就テハ、領事ヲシテ其ノ任ニ當ラシムルヲ妥當トスベキガ如シト雖モ、其ノ指導助長ニ關シテハ、從來ノ實績ニ鑑ミ、之ヲ領事ニ委スルハ遺憾ノ點少カラズ。殊ニ滿蒙政策ノ問題ハ事外交ニ關スルコト勿論ナルモ、主トシテ邦人及鮮人ノ指導助長ノ成否ニ係レリ。從テ滿蒙ニ於ケル我が特殊利益ヲ伸張シ、其ノ經濟的發展ヲ圖ラントセバ、寧ロ領事以外ノ別個ノ機關ヲシテ之ガ施設經營ニ當ラシムルニ非ザレバ、到底所期ノ效果ヲ舉グルコト能ハザルベシ。然レドモ滿蒙ハ尙外國ノ領土ナルヲ以テ、外交官又ハ領事官以外ノ者ヲシテ之ニ當ラシムルハ國際關係上面白カラズ。依テ拓務大臣ノ下ニ親任ノ總領事ヲ置キ滿蒙ニ關スル一切ノ事務ヲ統括處理セシメ、其ノ外交ニ關スルモノニ付テハ、外務大臣、在留民ノ保護、取締、指導獎勵及拓殖事業ノ保護獎勵等其ノ他一切ノ事務ニ付テハ、拓務大臣ノ指揮監督ヲ承ケシムルコトトシ、以テ拓殖行政ノ圓滑ナル運用ヲ圖ルノ外ナキモノト認ム。即チ之ニ依リ拓務大臣ハ朝鮮總督ヲ指揮シテ朝鮮統治ト充分ノ連絡ヲ保チ關東長官、南滿洲鐵道株式會社及東洋拓殖株式會社ヲ指揮シテ對滿蒙政策ノ完全ナル遂行ヲ圖ルコトヲ得ベク、其ノ外交政策ニ關スルモノニ付テハ、外務大臣ト充分ナル連絡ヲ保ツコトヲ得ベク、茲ニ初メテ帝國ノ滿蒙發展、在留鮮人ノ向上ヲ期スルコトヲ得ベシ。

我國ニ於ケル植民地統治ノ統括機關ハ沿革上種々ノ變遷ヲ經テ改廢常ナラズ。今日ニ及ビテ尙其ノ整備ヲ見ルニ至ラズ。即チ現在植民地統治ニ關スル中央機關トシテハ、內閣ニ拓殖局ヲ置キ、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳、樺太廳及南洋廳ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ラシムルモ、其ノ組織極メテ小且微力ニシテ、植民地統治ノ大綱ヲ統べ、其ノ施政ヲ監督シ、以テ拓殖行政ノ實效ヲ舉グルニ遺憾ノ點少カラズ。

現在植民地統治上拓務省設置ノ必要ナル理由概ネ左ノ如シ。

一 凡ソ立憲政治ノ下ニ於テハ、其ノ政治ニ關シ天皇及議會ニ對シ責任ノ所在ヲ明確ナラシムルヲ要スルコト言フ俟タズ。而シテ之ガ爲ニハ其ノ政治ニ關シ一切ノ責任ズル國務大臣ノ存在ヲ必要トス。內閣總理大臣ハ植民地統治ヲ監督シ其ノ責任ズト雖モ、他方ニ於テ各省大臣ノ首班トシテ行政各部ノ統一ヲ圖リ、庶政變遷ノ重責ニ當ルヲ以テ、到底植民地ノ事務ニ專ラナル能ハズ。從テ各植民地ノ利害ニ關シ充分ナル考慮ヲ加ヘ之ニ關スル國策ノ樹立及其ノ遂行ヲ圖ルニ適切ナラズ。

二 我國ノ植民地ハ比較的本土ニ隣接シ、且經濟上政治上及國防上内地ト密接不離ノ關係ニ在ルヲ以テ、各般ノ政策ノ樹立及其ノ遂行ニ際シテハ、内地及植民地ノ間ニ充分ノ連絡及統一ヲ必要トスルコト論ヲ俟タズ。然ルニ從來各植民地ニ於ケル各般ノ政策ハ多クハ各植民地總督又ハ長官ノ專行ニ委スルガ爲、往々ニシテ當該植民地ノミノ利害ニ限局セラレ、帝國全般ノ利害ニ適切ナラザル嫌アリ。

三 人事行政ノ圓滑ナラザルコトモ亦現行制度上ニ於ケル重大ナル缺陷ナリ。現在各植民地ニ在勤スル官吏ハ多クハ各廳内ニ於テノミ異動ヲ爲スニ止マリ、各植民地間ニ於テ之ヲ相融通シ適材ヲ適所ニ按配スル能ハズ。從テ其ノ進路ハ原則トシテ其ノ廳ノ小範圍ニ限局セララルヲ以テ、優秀ナル者ト雖モ其ノ進路ヲ塞ガレ、其ノ結果有爲ノ材ヲシテ植民地官廳ニ勤務スルヲ嫌忌セシムルニ至ル。從テ中央ニ一省ヲ設ケ、之ヲシテ植民地ノ人事行政ヲ統括セシメ、各植民地相互間ハ勿論本省ト植民地官廳トノ間ニ於テ相融通シテ適材ヲ適所ニ置キ、能ク其ノ才能ヲ發揮セシメ、以テ人事行政ノ圓滑ナル運用ヲ圖ルヲ緊要ナリト認ム。

四 各省ニ於テハ植民地ノ事情ニ通曉セザルヲ以テ、較モスレバ植民地ノ利害ハ閑却セララル嫌ア

リ。而シテ拓殖局ハ其ノ規模餘リニ小ニシテ、充分ニ植民地ノ事情ニ通曉スルコト能ハザルノミナ
ヲズ、亦微力ニシテ、各省ノ間ニ伍シテ能ク植民地ノ利益ヲ代表シ、充分且適切ニ之ヲ主張スルコト
能ハザルノ嫌アリ。

五 現在植民地統治ノ機關ハ各獨立シテ夫々威容ヲ整フルガ爲返ツテ遺憾ノ點ナキニ非ズ。故ニ此
ノ際之ニ一刷新ヲ加ヘ、一面中央ニ有力ナル機關ヲ置クト同時ニ、他面植民地統治組織ニ整理ヲ
加ヘ、以テ拓殖行政ノ實績ヲ擧グルハ、最モ時勢ノ要求ニ合致スルモノナリト信ズ。

拓務省設置ノ意見ニ對シテハ從來多少ノ反對說ナキニ非ズ。或ハ拓務大臣ト各植民地長官トノ間ニ權
限上ノ爭議ヲ生ズベシト言ヒ、或ハ屋上屋ヲ架スルニ依リテ事務ノ澁滯ヲ來スベシト說ク者アリ。然レ
ドモ拓務大臣ハ植民地統治ニ關スル大綱ヲ統べ、大體ニ於テ職務執行ノ權限ハ之ヲ植民地長官ニ委任
スルヲ以テ、兩者ノ職務權限截然トシテ區分セララルルノミナラズ、中央ニ於ケル有力ナル統治機關ノ新
設ハ寧ロ植民地事務ノ進捗ニ便スベシ。之拓務省設置ノ必要アル所以ナリ。

